令和４年度　東京都内湾水生生物調査　５月鳥類調査　速報

●実施状況

令和４年５月６日に鳥類調査を実施した。天候は晴れ時々曇りで、気温 20.8～25.2℃、南風、風速 2.0～4.7m/sec であった。調査当日は中潮で、干潮が 13 時 59 分（33cm）、満潮は 20 時 59 分（153cm）であった（気象庁のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
作業時刻	10:09-11:22	11:50-12:57	13:19-14:14
天候	晴れ	曇り	晴れ
気温(℃)	20.8	23.3	25.2
風向	南	南	南
風速（m/sec）	2.0	3.5	4.7
備考	干潟は広く干出。ヨシ原でオオヨシキリが多数さえずっていた。	海浜公園の浜辺は観光客が多い。更に、浜辺の近くをパドルサーフィンが通過した。	最干潮時、干潟は広く干出。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
数が多かった鳥類上位２種	ユリカモメ(440 羽)	カワウ(1425 羽)	カワウ(11 羽)
	カワウ(292 羽)	アオサギ(13 羽)	メダイチドリ(9 羽)
備考	・重要種として、18 種を確認。（クロツラヘラサギ、ヒクイナ、ホウロクシギ、ハマシギ、コアジサシ、等） ・10 種のシギ・チドリ類が確認され、多くの種が干潟で採餌。 ・干潟の汀線付近でアジサシとコアジサシの群れが休息。カワウ、ユリカモメ、ウミネコの群れも休息。 ・干潟でサギ類が採餌。クロツラヘラサギ２羽が護岸や干潟で休息。 ・ヨシ原でヒクイナ１羽がさえずる。	・重要種として、9 種を確認。（オオバン、コチドリ、等） ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。巣数は第六台場 459 巣、鳥の島 106 巣で合計 565 巣。巣内に雛が見られたほか、営巣地や岩礁で幼鳥を確認。個体数は合計 1425 羽。 ・サギ類はアオサギとコサギを確認したが、繁殖に関する情報は見られなかった。 ・護岸や岩礁等でコチドリ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギを確認。	・重要種として、10 種を確認。（メダイチドリ、ミサゴ、等） ・干潟でコチドリとメダイチドリ、チュウシャクシギ、護岸付近でキアシシギとイソシギ、キョウジョシギが確認された。 ・干潟でカワウが休息、サギ類が採餌していたが、個体数は少なかった。 ・ミサゴが杭の上で休息。 ・コアジサシは確認されなかった。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和4年 5月 葛西人工渚(東なぎさ) 範囲内	沖合	合計	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園 第六台場	鳥の島	公園側	合計	重要種 選定基準 文化財保護法	種の*1保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RL2020(区部)
1	カモ	カモ	カルガモ				2	2	2	1	5				
2			スズガモ	12		12			6		6				留
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	7		7									留
4	カツオドリ	ウ	カワウ	255	37	292	11	1141	284		1425				
5	ペリカン	サギ	アオサギ	8		8	6	5	8		13				
6			ダイサギ	13		13	6								NT
7			コサギ	10		10	5	1		3	4				VU
8		トキ	クロツラヘラサギ	2		2							国内	EN	CR
9	ツル	クイナ	ヒクイナ	1		1								NT	CR
10			オオバン					1			1				CR
11	チドリ	チドリ	コチドリ				2		1	1	2				CR
12			メダイチドリ				9						国際		VU
13		ミヤコドリ	ミヤコドリ	20		20									VU
14		シギ	タシギ	1		1									VU
15			チュウシャクシギ	18		18	1								VU
16			ホウロクシギ	1		1							国際	VU	CR
17			アオアシシギ	9		9									NT
18			キアシシギ	23		23	1			6	6				VU
19			ソリハシシギ	1		1									VU
20			イソシギ	1		1	5		4		4				VU
21			キョウジョシギ	13		13	3	5	1	3	9				VU
22			ハマシギ	1		1								NT	VU
23		カモメ	ユリカモメ	440		440									
24			ウミネコ	58	21	79			1	2	3				留
25			コアジサシ	123		123								VU	EN
26			アジサシ	45		45									
27	タカ	ミサゴ	ミサゴ				1							NT	EN
28		タカ	トビ				1	1			1				NT
29	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1		1	5								
計8目13科29種				23 種	2 種	23 種	14 種	7 種	8 種	6 種	12 種	0 種	3 種	6 種	23 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会,2012)に従った。

*1　種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*2　環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

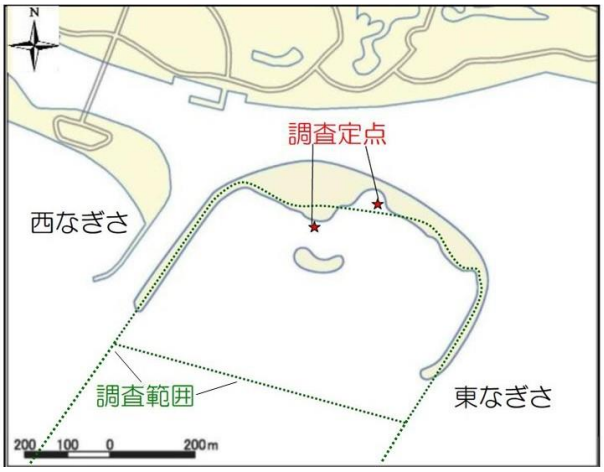
*3　東京都レッドリスト(区部)2020年版：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

＜葛西人工渚(東なぎさ)＞

〇調査地点の状況

引き潮で干潟は広く干出していた。

西側の地点より南西方向を見る



〇出現種(シギ・チドリ類)

10 種のシギ・チドリ類が干潟で採餌していた。確認種はすべて東京都レッドリストに掲載されており、加えてホウロクシギが種の保存法で国際希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、ハマシギが環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。

ミヤコドリ

チュウシャクシギ

ホウロクシギ

アオアシシギ

ソリハシシギ

キョウジョシギ

キアシシギとハマシギ（右端の１羽）

〇出現種(クロツラヘラサギ)

護岸と干潟で休息するクロツラヘラサギ 2 羽が確認された。本種は種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)、東京都レッドリストで絶滅危惧IA類(CR)に指定されている。

クロツラヘラサギ

〇干潟利用状況

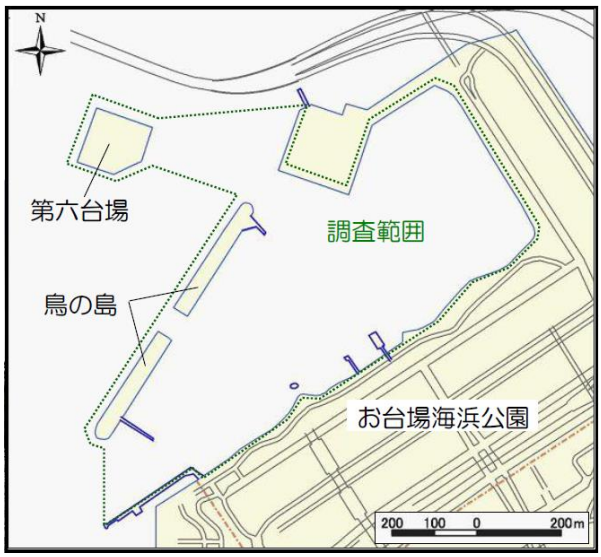
干潟でカワウ、ユリカモメ、ウミネコ、アジサシ、コアジサシの群れが休息していた。コアジサシは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。

カワウ（黒色の鳥）、ユリカモメ、ウミネコの群れ

＜お台場海浜公園＞

〇調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



〇出現種（カワウ）

第六台場で 459 巣、鳥の島で 106 巣、合計 565 巣が確認され、巣内には大きく育った雛が見られた。雛の鳴き声もよく聞かれた。第六台場の護岸や樹林、鳥の島では巣立ち後の幼鳥が多く見られた。

〇出現種（サギ類）

アオサギとコサギが第六台場と鳥の島、お台場海浜公園で観察されたが、営巣は確認できなかった。また、幼鳥や古巣なども見られなかった。

〇出現種（シギ・チドリ類）

コチドリ、キョウジョシギ、キアシシギ、イソシギの 4 種が第六台場や鳥の島、お台場海浜公園で確認された。東京都レッドリストでコチドリは絶滅危惧 IA 類(CR)に、他の 3 種は絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

＜森ヶ崎の鼻＞

〇調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が広く干出していた。

〇出現種（シギ・チドリ類）

コチドリ、メダイチドリ、チュウシャクシギが干潟で、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギが護岸やその周辺で確認された。メダイチドリは種の保存法で国際希少野生動植物種および東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。東京都レッドリストでコチドリは絶滅危惧ⅠA 類（CR）、チュウシャクシギ、キョウジョシギ、キアシシギ、イソシギは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

〇出現種（ミサゴ）

1 羽が杭にとまっていた。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧（NT）、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類（EN）に指定されている。

〇干潟利用状況

シギ・チドリ類の他、カワウとサギ類が干潟で採餌・休息していたが、個体数は少なかった。コアジサシは確認されなかった。NPO 法人リトルターン・プロジェクトによれば 4 月 17 日に森ヶ崎水再生センターにおいてコアジサシが初認されているが、5 月 6 日の時点で営巣は確認されていない。

https://littletern.hatenablog.com/entry/2022/04/17/104931

＜その他＞

〇ウミネコの繁殖

砂町運河では構造物やその周辺でウミネコの成鳥 64 羽が確認され、そのうち 28 羽が営巣中と考えられた。雛は見られず、抱卵中と推測された。この他、カワウ 10 羽、アオサギ 1 羽、キョウジョシギ 20 羽が周辺で確認された。

ウミネコが営巣する構造物

営巣中のウミネコ

＜トピックス＞

−カワウの雛を持ち去るトビ−

第六台場付近に飛来したトビが、足にカワウの雛を持って飛び去るのが観察された。前後の行動から、飛び去る直前に捕えたと考えられるが、捕獲が行われた場所や状況、カワウの雛が生きていたか等、詳細は確認できなかった。地面に落ちていた死体を拾った可能性も考えられる。

カワウの雛を持ち去るトビ（すべて同一個体）。右端はトビの足付近を拡大したもので、カワウの雛が頭を下に向けている。